

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立益田清風高等学校 学校番号 56

## I 自己評価

1 学校教育目標	理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通して、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身につけ、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身につけたい生徒</li> <li>・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒</li> <li>・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力を身につけたい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇教務		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの有効活用という意味で家庭学習の大切さが以前より増してきたが、自宅学習時間の確保がよりいっそう今後の課題である。(現状では、自宅学習時間が増加していない)</li> <li>・ICT活用という意味では、本校は県平均以上であったが、有効活用という点での研究はさらに必要である。</li> <li>・生徒の授業アンケートの結果は、全体として、授業への嫌悪感がないことはよかった。クラス内で学力差があることも含め個に応じた授業づくりのさらなる研究は課題である。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科指導の重点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の特徴を生かし、学習意欲を喚起し深い学びを得る授業の推進</li> <li>・学科の特性に応じた生徒の将来につながる授業の推進</li> <li>・授業規律・学習環境を大切にするとともに、見通しをもった授業を推進</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会や職員会議において情報共有し、評価方法を検討する。</li> <li>・分掌・学年会の情報担当を中心に教員間及び生徒・保護者への迅速な情報伝達、オンライン支援を実施する。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の研究」、「よりよい教育実践のためのICT(情報通信技術)の有効活用」を本年度の学習指導における校内の全校統一テーマに設定し、学習指導内容の精選及び生徒の学習意欲の向上に努めます。</li> <li>(2) (1)の推進のために、教員間の研修を重ね、授業の改善に取り組みます。</li> <li>(3) 「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取り組みを高める支援を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教員の丁寧な指導により生徒の学習意欲が向上し定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。</li> <li>(2) 県によるICTの有効活用の実践に関するアンケートで、県平均を上回る。</li> <li>(3) 生徒による授業評価を実施し、授業への満足度が平均80%以上となる。</li> </ul>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程委員会、職員会議、教科会で課題を発見し、指導方針を立てている。</li> <li>コロナ関連での出席停止者へのオンライン学習支援を実践することで、学びの機会を保障した。</li> <li>5月と11月に実施した公開授業週間で、教員間で授業参観や研究授業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観点別評価が生徒の学力向上につながったか。</li> <li>②学校全体として組織的に取り組めたか。</li> <li>③学習意欲を喚起し深い学びを得る授業を実施できたか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成 果 ・ 課 題	<p>○観点別評価において、学校全体として組織的に取り組むことができた。次年度以降の教育活動に対する課題解決に努めることに繋がった。</p> <p>○オンライン学習支援をスムーズに行うことができた。通常授業や文化祭などにおいてもICT活用が進んでいる。</p> <p>▲生徒への授業アンケートによる授業満足度は、学年による違いはあったが概ね80%前後であった。</p> <p>▲3年次生への保護者アンケートでは、「一人一人の能力に応じた指導を行っているか」において否定的な回答が17%であった。進路実現という点で若干不満をもっている保護者もいるように思われる。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、教育課程委員会、職員会議、教科会で課題を発見し、可能な限り個に応じた（個々の生徒に合った）対策を講じる。</li> <li>ICTを活用するだけでなく、授業及び家庭学習での有効な活用法の研究をさらに進めながら、生徒の成長につながる授業改善を実践する。</li> <li>同じ科・同じ系列内での学力差に対応できる課題や宿題など家庭学習の充実に向けたよりよい取り組みを実践する。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習成果発表会（総合学科）を参観して感じたことは、総合学科の生徒は進学だけでなく、将来を見据えた学びをやっている印象である。それに対し普通科は将来の目標を定めている段階であるので、学校からのフォローがより必要なのではないか。</li> <li>全ての学科において、生徒の学習成果や学習の様子を保護者・中学生・中学生の保護者等外部に発信すべきである。</li> <li>保護者と生徒との授業内容に対する満足度のギャップがあるため、保護者に対する十分な情報発信が必要である。特に、高い調理技術を習得している食文化系列の生徒の姿などは、保護者にも見せられると良い。生徒が活躍している姿は、マスコミを利用するなどして発信していくことも必要である。</li> <li>ICTを効果的に活用できている。生徒もまとめる力が培われ、また学校に登校できない状況でも自宅学習ができる環境にある。</li> </ul>
---

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立益田清風高等学校 学校番号 56

## I 自己評価

1 学校教育目標	理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通して、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身につけ、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身につけたい生徒</li> <li>・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒</li> <li>・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力を身につけたい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇生徒指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、各分掌、管理職及び外部機関との連携を通じて情報共有している。</li> <li>・不登校や発達障がい等の対応について、生徒理解が不十分な面があった。特性を理解し、学校、家庭及び外部機関との連携を密にすることが大切である。</li> <li>・制服やその着こなしなどのルールについて、保護者等外部に対して積極的に理解を求めていく必要がある。</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規律、授業規律の確立</li> <li>・自他の人権や生命を尊重する意識の確立</li> <li>・問題行動等（いじめを含む）の未然防止と事後指導の充実</li> </ul>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で積極的に情報を共有し、共通理解と共通指導をする。</li> <li>・職員が危機意識を高く持ち、些細なことも見逃さず、早期発見・早期対応・早期解決に努める。</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、授業態度などの生活指導において、職員間の情報共有を図り、生徒に指導します。 (2) いじめ調査や生徒観察により、職員の共通理解を図り、情報共有することにより、いじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル（SNSの正しい使用等）意識を高めます。 (3) 問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、関係職員と外部専門家等との連携を密にし、早期発見・早期対応・解決に努め、事後指導まで粘り強く行います。	(1) 規範意識をもち落ち着いた学校生活を送れている。また、正しい服装の着こなしができています。 (2) いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等使った問題のある画像の製造・所持・ばらまきや誹謗中傷を0にする。 (3) 問題行動の件数が前年度より減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの職員による昇降口指導を行うことで、制服の着こなしルールを理解し、普段の生活における規範意識を高めている。</li> </ul>	① 過去年度との比較 ② 生徒保護者による学校評価	A B C D A B C D

<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発活動等の効果もあり、SNSの問題は減少している。いじめに関しては、アンケート等により早期に発見し、対応できている。</li> <li>・問題行動の未然防止に努めるとともに、職員の共通理解を図り、日常生活の中で注意喚起をこまめに行った。</li> </ul>	<p>③ アンケート結果の検討</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 成 果 課 題</p>	<p>○学校規律や授業規律はよく守られており、身だしなみも良くなっている。 ○近年、豪雨や台風等の災害が増えていることを踏まえ、生徒の災害対応能力の養育を更に図っていく必要がある。 ・ ▲多方面においてMSリーダーズがさらに活躍できるよう、生徒の主体性を大切にしながら計画していく。 ▲自転車通学生徒のヘルメット着用を奨励していく。</p>	<p>総 合 評 価 A (B) C D</p>
<p>1 3 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSの使い方や情報モラル、交通安全に関する指導は年間を通じて行っていく必要がある。</li> <li>・ 18歳への成人年齢引き下げによる生徒の環境の変化を見守り、必要に応じた支援や指導をしていく。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの良い挨拶ができている。小・中学校から継続された習慣が大切で、それが高校でも形になっている。</li> <li>・コロナ禍以降、MSリーダーズと子ども会との連携がなくなってしまったが、コロナが落ち着いたらボランティア活動などに参加してほしい。</li> <li>・ヘルメット着用を強要しすぎると、自転車に乗らない生徒が増えるのではないかと。時代の流れを見て対応していったらどうか。</li> <li>・18歳成人に際して、保護者の意識も変える必要がある。親が学ぶ機会を設けたい。</li> <li>・学校や職場に対して、保護者の干渉が増えていると思う。その対応に苦慮している。</li> <li>・積極的な昇降口指導によって、生徒に寄り添うことができている。</li> </ul>
---

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立益田清風高等学校 学校番号 56

## I 自己評価

1 学校教育目標	理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通して、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身につけ、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身につけたい生徒</li> <li>・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒</li> <li>・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力を身につけたい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。(生徒)」では80%以上の肯定的評価を受けているが、今後も、生徒の進路希望に沿った質の高い支援を継続していく必要がある。</li> <li>・「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。(保護者)」では肯定的評価が65%に留まっているため、保護者への情報提供の内容や方法について工夫する必要がある。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供・ガイダンス機能の充実</li> <li>・キャリア教育の推進</li> <li>・地域を活性化する人材育成</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と学年会で情報共有を図り、連携を深める。</li> <li>・市役所、商工会、地元企業など外部との連携に関して、各分掌、各学科と情報共有を行う。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①地元企業ガイダンスや進学ガイダンス、職場体験学習、企業見学会、パネルディスカッションを実施します。 ②キャリア・パスポートを活用し、学校生活を通して、進路および卒業後のキャリアに必要な能力を養成します。 ③保護者対象進学・就職説明会や、地元企業ガイダンス、地元企業の方による模擬面接を実施します。	①保護者、生徒による学校アンケートの進路関係項目の評価が向上する。 ②生徒が学校生活で目標を定め、行動を起こし、それを振り返ることで、自らの成長を実感することができる。 ③進路行事に招く外部講師の本校に対する評価が向上する。 ④就職地元定着率が向上する。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で2年間実施できていなかった職場体験学習や企業見学会も実施することができた。また、1、2年生のガイダンスに地元社会人による講話を取り入れた。</li> </ul>	①生徒や保護者が情報を適切に把握し、進路実現に活かすことができたか。	A (B) C D	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期や行事の目標を設定し、その振り返りを通して、自分の成長や課題を見つけることでキャリア教育を充実させた。</li> <li>・地域の教育力を活用し、地域の魅力を知り、考えさせる行事ができた。</li> </ul>	<p>②生徒が自分の適性を把握し、進路実現に向けて主体的に取り組むことができたか。</p> <p>③地域の各機関との連携が取れたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職希望者だけではなく、進学希望者に対しても、職業観やUターン就職および地域の活性化について考えさせるガイダンスを行うことができた。</li> <li>○学校全体で、足並みを揃えて、キャリアパスポートを活用し、キャリア形成に必要な能力を養うことができた。</li> <li>▲総合的な探究の時間やキャリアパスポートを通して、そこで考えたことや身に付けた力を、進路実現において具現化していく必要がある。</li> </ul>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>1 3 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事の目的や各学科の取組を再確認し、生徒、保護者、教員、誰から見ても分かりやすい進路指導計画を再構築する必要がある。</li> <li>・学習指導要領に基づく大学入試等に対応した指導が円滑に行うことができるよう、他の分掌や学科と連携し、指導計画を充実させる必要がある。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望者が、地元の企業や地元で働くことについて知ることができるガイダンスは良い取組である。</li> <li>・進路について、3年生の進路決定者が、2年生に自分の経験を伝える「3年生と語る会」は良い取組である。</li> <li>・現在は18歳で成人となるので、どのように自立を促していくかが課題である。保護者としても、そのために、親として何をすべきかを学べる機会があると助かる。</li> <li>・地域の人材を活用することは、活かされる地域の方にとっても嬉しいものである。また、生徒もその雰囲気を感じる。今後も地域との連携を大切にしたい。</li> </ul>
---